

## 第012講

The potential impact of this hypothesis on the field of medicine cannot be overestimated.

(杏林大)

今回のテーマは「受動態の訳し方」です。

日本語の「れる／られる」は、例えば「先生にノートを見られた。」のように、〈被害・迷惑〉を表す場合があります（「先生に絵を褒められた。」のように、そうではない場合もあります）。英語の受動態をなんでもかんでも「れる／られる」で訳すとおかしくなることがあるので注意してください。特に「助動詞＋受動態」の場合は要注意です。

What cannot be cured must be endured.

これを「治療されることができないものは我慢されなければならない。」と訳しては不自然です（減点対象かどうかは微妙）。これは普通「治療することができないものは我慢しなければならない。」などとします。cannot be cured を「治療することができない」、must be endured を「我慢しなければならない」としています。英語の受動態が日本語では能動態になっていることに注目してください。

★the impact of A on B 「AのBへの影響」（第004講参照）

### 【訳例】

この仮説の医療の分野への潜在的な影響は過大評価することができない。（田中）

この仮説が医療の現場に与える潜在的な影響は過大評価できない。（DeepL 翻訳ツール）

<添削>

医学分野におけるこの仮説の潜在的な影響力ははかりしれない。

🗸下線部は共に不可。

この仮説が医学の分野に対して与える可能性のある影響は、高く評価することができる。

🗸下線部不可。「その和文を見て、元の英語が復元できるもの」が「安心安全な和訳」。